

中央教育審議会大学分科会の大学教育部会が、大学生にもっと勉強させる教育改革が必要だという審議のまとめを公表した。部会長を務める佐々木雄太・名古屋経済大学長にまとめの狙いを寄稿してもらった。



佐々木 雄太
中教審大学教育部会長
名古屋経済大学学長

部科学省の教育改革支援事業（GP）を通して大学のトップが教育への関与を強め、教員の教育への力の入れようも大きくなった。

しかし、産業界を含む社会全般や、当事者である学生自身の学士課程教育に対する評価は低いままにある。学生の「学力」低下もさることながら、大学卒業生の「人間力・社会人基礎力」の不足が指摘されて久しい。

加えて、今日、経済のグローバル化の進展や高度情報化に伴う社会の急速な変容は、将来予測をな時代において、生涯学習を育成する大学へと迫り、新しい状況に対応できる人材の育成が差し迫って、1年間の「審議のまとめ」を公表した。これは当事者である若者にとって切実な問題であると同時に、企業を含めた社会全体にとっても抜き差しならない課題である。このような社会の要請に応え、若者の未来を

3月26日、中教審の大学教育部会は「予測困難な時代において、生涯学習を育成する大学へ」と題して、1年間の「審議のまとめ」を公表した。これは当事者である若者にとって切実な問題であると同時に、企業を含めた社会全体にとっても抜き差しならない課題である。このような社会の要請に応え、若者の未来を改善が図られてきた。文保証するために、学士課程

大学生、主体的学びを

程教育の質的転換に早急に取り組むことが大学の責務である。

□ □ □

大学教育部会は以上のような状況認識を共有しながら大学が育成すべき学士力とは何かという問題から議論を起した。4・6時間はほぼ1日の授業時間に相当する。代にあっては、受け身の学びを通して注入された知識は役に立たなくなるとも。必要なのは、どんな環境下でも答えのない問題に最善解を導くことができる能力、未体験予習・復習が想定されている状況に遭遇したときに、そこに存在する問題を発見し、それを解決する筋道を見定める能力である。

ある調査によれば、今日の大学生の4人に3人までが、「大学でも教室で先生が全部教えてほしい」と望んでいるという。このような受け身の学びでは予測不可能な時代に対応する力は育たない。必要なのは「主体的に考える力」を育てる「主体的な学び」である。審議のまとめが、生涯学習統

主体的な学びを回復する起点として、学生の学修時間に着目した。日本の大学生の1日の学修時間は、平均4・6時間であるという調査結果がある。4・6時間はほぼ1日の授業時間に相当する。代にあっては、受け身の学びを通して注入された知識は役に立たなくなるとも。必要なのは、どんな環境下でも答えのない問題に最善解を導くことができる能力、未体験予習・復習が想定されている状況に遭遇したときに、そこに存在する問題を発見し、それを解決する筋道を見定める能力である。

必要なのは「主体的に考える力」を育てる「主体的な学び」である。審議のまとめが、生涯学習統

双方向の授業必要 ■ 問題解決能力を育成

るものではない。日本の大学生の学修時間の少なさは「教室で先生が全部教えてほしい」という受け身の学修姿勢の反映でもある。この状況は、「学修時間を増やそう」という掛け声だけでは変えられない。

求められるのは、学生の主体的な学びを喚起する教育上の工夫である。教室では一方通行的な講義ではなく、双方向的な授業が求められる。フィードバック等を取り入れ、学びのきっかけを作ることにも有効かもしれない。教員は担当授業科目を精選し、必要な授業に

これまでの力を傾注することが求められる。学生に主体的な学びの「指針」を明確に示すことも重要である。大学は明確な教育目標に基づいてカリキュラムを体系的に構築し、その体系の中の個々の授業科目の位置づけをシラバス（授業概要）などに明示する。

また、カリキュラムを体系化し、それに沿って目標とする学士力を育成するには、教員の教育活動が組織的であればな